



先人の想いが残る平地林

## 武蔵野の平地林の成り立ち

三芳町に広がる平地林のほとんどは、江戸時代に人の手によって作られたもの。先人が残した平地林の恵みとは――。

# 武

蔵野から連想する平地林は、江戸時代になって、武蔵野に畑作新田が開拓されて以降に形成された風景です。それまでの武蔵野は、地下水位が深く火山灰土で覆われ、栄養分や水が少ない台地で、ほぼ一面が草原であったと言われています。江戸時代になり、武蔵野の台地上の新田開発が進むなか畑作地開墾ばかりでなく畑地の開墾と併せて木を植えて平地林がつけられました。

武蔵野の新田開発で全国的にも知られる三芳町の三富新田には「殿さまがナラの苗を分けてくださったヤマ（平地林）をつくった」と記録に残っています。

### ヤマは台地の恵み

平地林を三芳の農家の人々は「ヤマ」と呼びます。語源的には「ヤマ」は「大きい」「マ」は「恵み」という意味を持ちます。畑作新田の開墾において、ヤマ（平地林）は大きな恵みをもたらすものだったのです。

平地林は、武蔵野台地で人々が農業で暮らしていく場合に必要不可欠な恵みをもたらしてくれました。具体的には以下のような恵みや効果をもたらしてくれました。

■地下水を集める効果：樹木は根が

- 深く張り、水分と共に栄養分を吸い上げて湿潤な大地を作り上げ、井戸にも満々と水を蓄えます。
- 風を防ぐ効果：防風林の効用です。平地林は、寒い北風や嵐のような南風も防ぎ、畑の土の飛散防止にもなっています。
- 暑さや寒さを防ぐ効果：木は養分と共に水分を吸い上げ、葉から気化させます。その際に熱を奪い気温を下げます。冬は水分を吸い上げ気温低下を抑えます。
- 燃料としての役割：平地林の樹木は燃料に。燃やされた灰は畑の肥料としても役立ちます。
- 畑に欠かせない落ち葉堆肥：武蔵野台地は火山灰土のため栄養分は少ないが平地林の落ち葉の堆肥が恵みをもたらします。冬の落ち葉掃きは必要不可欠の作業です。
- 建築材としての役割：平地林の赤松は、建築の際の基礎固めの木材や屋根の梁材として役立ちます。屋敷林の樺や杉・檜・竹は住宅の木材として有益でした。

### 平地林が育む生物多様性

平地林は、樹木だけではありません。様々な植物や動物にとっても大事な生息地となります。多種の山野草の繁茂、カブトムシやクワガタをはじめとした昆虫たちの繁殖、鳥た

ウラナミアカシジミ

オオタカ

キンラン

三富新田地割航空図

**生物多様性**

江戸時代から受け継がれてきた農法を守り続け、キンランなどの植物480種、オオタカなど動物700種、農作物74種など生物多様性が維持されています。

ちの渡りや営巣地、小動物の食糧確保や生息の場など様々です。

春先に平地林の木々が芽吹きをはじめるところになると、春の木漏れ日がさし、まだ草が生い茂らない林下には様々な植物が花を咲かせます。タチツボスミレ・ニリンソウなどです。立春を過ぎる頃になると、これらの山野草は成長し、5月の初めころまでには花を咲かせます。

ここで紹介した植物たちは強い日差しを好みません。平地林の木漏れ日からもれる春の陽に育ち、夏の暑い日差しの頃には草の中に隠れてしまします。このように、平地林に守られ育つのです。

また、秋になり平地林に多いナラやクヌギなどの樹木はどんぐりを、またエゴノキの実をはじめとした様々な実りは、鳥や小動物の餌となります。林は鳥や小動物にとって、最高のレストランです。

近年、環境の悪化により、動植物の種の減少と言う言葉が、しばしば報道されますが、平地林は動植物たちにとっては、生命を守ってくれる大事な環境となっています。

武蔵野の新田開発によって形成された平地林などは、新田に暮らす人々にたくさんの恵みをもたらすばかりでなく、昆虫・植物・動物の種を増やす役割もしてきました。

### 自然豊かなトカイナカ三芳町の魅力

#### カブトムシ

夏になると無数のセミの鳴き声が響きわたる緑地公園。カブトムシがたくさん現れます。町のイベントで例年カブトムシの幼虫キット作りが旧島田家住宅で行われています。



#### 蛭舞う、こぶしの里

こぶしの里を舞うホテルは4月に地元の小学生が幼虫を放流し、5月下旬から6月中旬ごろ成虫に。脇を流れるこどもの川でザリガニ釣りをする親子の姿がよく見られます。



#### 落ち葉堆肥農法

日本農業遺産に認定された武蔵野の落ち葉堆肥農法。集めた落ち葉を堆肥にし、町の特産品「さつまいも」などの肥料として活用されています。

